

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2007～2010

課題番号：19401019

研究課題名（和文） コエ語族比較言語学の新展開

研究課題名（英文） New development in Khoe comparative linguistics

研究代表者

中川 裕（NAKAGAWA HIROSI）

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授

研究者番号：70227750

研究代表者の専門分野：言語学

科研費の分科・細目：言語学・言語学

キーワード：コイサン、コエ語族、中部コイサン語族、歴史言語学

1. 研究計画の概要

本研究は以下の6つのポイントをもつ。このうち、(1)-(2)は実証的（記述言語学的）な性格をもち、(3)-(5)は理論的（歴史言語学的）な性格をもち、(6)は社会言語学的性格をもち、

(1)コイサン諸語コエ語族において歴史的分類の再検討にとって重要な未記述言語であるハバ語を現地調査し、新資料を獲得する。

(2)ハバ語を含むコエ語族の記述の進んでいない重要な言語の音韻構造・文法構造の重要な側面と語彙を高い精度で記述する。

(3)定説とされていたコイサン諸語コエ語族の系統分類を批判的に検証する。

(4)とくに、グイ・ガナ語群とナロ語群の構成言語を再考する。

(5)十分な実証的根拠を提示しながら改定案を提案する。

(6)重要なコエ諸語および隣接言語の社会言語学的動態の諸側面を把握し記述する。

2. 研究の進捗状況

(1)実証研究面では、ハバ語の小さな集落の発見と、健全な言語保持をしている母語話者の協力を得ること、基礎語彙およびこの言語の類型論的特色を示す知覚関連語彙、音韻的構造の解明のための基礎資料を収集することに成功した。また、グイ語とガナ語の構造精査を首尾よく展開し、高い精度で記述するための分析することができた。さらに、ナロ語についての専門家からの資料提供を受けることができた。これらによって、コエ語族カラハリ・コエ語群の系統関係を再検討するための新しい知見がそろったと判断できる。

(2)歴史言語学的な研究は、上記の整備された基礎資料の精査によって、これまで定説的に

はグイ・ガナ語群に分類されていたハバ語が、実際は、ナロ語群に所属すると考える方が、コエ語族の西カラハリ・コエ語派の歴史全体をより正確に捉えることができるという、きわめて貴重な知見をもたらすことができた。これは、従来の説に対して本研究が設定していた重要な仮説の一つが証明されつつあることを意味し、コエ比較言語学への大きな貢献のひとつである。この成果は、国内外のコイサン研究者には情報提供しフィードバックを受け（3人の海外のコイサン言語学者を交えたワークショップも開催し）、論文として公表する準備を進めている段階である。またコエ語史に関するその他の論考は、現在投稿中の論文と、国際学会発表、ワーキングペーパーとしての公表がすでにある。

(3)未記述のコエ諸語社会に関する情報は、質的な観察に基づくものであるが、ある程度蓄積することができた。また、連携研究者によって、コイサン諸語社会の言語人類学的特徴についても知見がもたらされ、複数の国際学会発表と論文に結実した。

3. 現在までの達成度

おおむね順調に進展している。

上記の進捗状況で述べた通り、実証的な観点からも、理論的な観点からも、本研究が計画していた目的は意義のある成果とともに達成されつつある。もちろん、まだ補足的な調査による資料の敷衍は必要だが、それは最終年度に実現できる見込みである。さらに、研究成果の公表に関しても、すでに具体的成果がでてきている。もちろん、まだ国際学会などでの口頭発表や、刊行までの時間のかからないワーキングペーパーや査読なしのペー

パーが多いが、最終年度以降、成果の査読付き学術誌や図書として刊行する準備は進めている。

4. 今後の研究の推進方策

上述のように、最終年度には補足資料の収集のための現地調査を行い、その後には、これまでの成果の公表と関連領域の研究者（とくに、コエ語族の他の語派であるコエコエ語派、東コエ語派の専門家）からのフィードバックを受け、本研究でもたらされた西カラハリ・コエ語派の比較言語学的分類の新説がもつコエ語族全体の歴史解釈へのインパクトについて探求する。

それと同時に、本研究が進行中に新たに発表された、トム・グルデマンによるコエ語族とクワディ語との共通起源説（および、西カラハリ・コエ語派の起源に関するきわめてラディカルな仮説）の検証を、本研究が蓄積した資料をもとに試みる新展開を行う。これは、今後の新たな発展的研究トピックであるが、すでに、昨年度から、グルデマン教授とは共同の研究を開始しているので、具体的な比較方法のための語彙項目（意味領域）はすでに討議済みで、本研究の締めくくりとして、最終年度中にこのトピックのパイロット調査を終えることが期待できる。

5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 15 件）

① Nakagawa, Hiroshi (forthcoming) “A first report on G|ui Ideophones” In Hieda, O., C. Koenig, and H. Nakagawa (eds.) *Geographical Typology of African Languages*. John Benjamin. (in print) 査読有

② Nakagawa, Hiroshi (2009) “A preliminary phonetic investigation of the lexical tones of G|ui” *Working Papers in Corpus-based Linguistics and Language Education*, TUFU, (3: 45-52) TUFU. 査読有

〔学会発表〕（計 18 件）

① Nakagawa, Hiroshi “A preliminary report on the perception verbs of K≠haba” Association for Linguistic Typology - 7th Biennial Meeting, 25-28 September 2007, Paris. 査読有.

② Nakagawa, Hiroshi “Phonotactic constraints of roots in G|ui”, The World Congress of African Linguistics 6 (WOCAL6), August 17-21, 2009, Cologne, Germany. 査読有.

〔図書〕（計 1 件）

① Hieda, O., Koenig, C., and Nakagawa, H. (eds.) *Geographical Typology of African*

Languages. John Benjamin.